マルシェ大原野
お買い物券 ono
¥100
2025年
5月末
まで有効

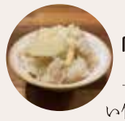
京都らくさい
マルシェ大原野

大原野の野菜・加工品の販売『マルシェ大原野』は、地域住民が中心となって運営されています
主催/大原野農産物等直売所運営協議会

営業時間
毎週火曜　9時～11時半
第1・3土曜　9時～12時
売り切れ次第終了

マルシェ大原野フェイスブックをぜひフォローしてください！

竹の子のシーズン！新鮮な朝堀りが手に入るマルシェへようこそ



旬を味わう
「竹の子ごはん」

一年に一度は食べたい竹の子料理と言えばこちら。朝堀り竹の子の風味を贅沢にあじわうなら糠（ぬか）を入れずに湯がきます。薄口しょうゆとみりんで下味をつけて、お揚げさんと一緒にお出汁を入れて炊くと美味しいですよ。

春の味覚・京たけのこ。朝の掘りたてがたくさん並びます。人気のサイズは売り切れてしまうのでお早めに。春の野菜や果物もにぎわうマルシェ大原野。朝散策のついでに、ぜひお越しください。お待ちしております♬

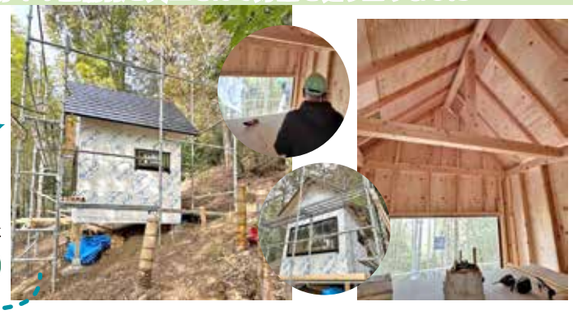
純米吟醸「藤袴」は第1・第3土曜日に販売中です！

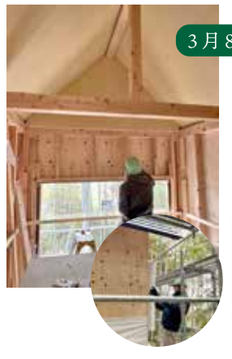
イベント報告

ランプの館　のんびり舎　　ランプの館　上棟を済ませ竹やぶ整備隊と大工さんで外壁を造り上げました

外壁下地を施工中
2月23日（日）

断熱材を充填しました
3月7日（金）





3月8日（土）～9日（日）
断熱材と躯体を板で閉じていきます

目地を埋めて養生したら漆喰を塗ります
3月8日（土）～9日（日）

完成したランプの館のお披露目会を行います！ぜひお越しください　4月13日（日）10:00～12:00【予約制】

一緒に働きませんか？　経理事務（正社員）※実務経験必須　業務内容：銀行業務・給与業務・会計業務他
・給与…20万～27万・休日…水曜日・木曜日・勤務時間…9時から18時　詳細は小野建築設計・川上までお問い合わせください

土地探し・建替・リフォーム・空き家活用などお気軽にご相談下さい
株式会社小野建築設計　TEL. 075-335-2254
〒610-1123 京都市西京区大原野上里南ノ町10番地　定休日：水曜日・祝日
ピンタレストでは部位ごとの事例を特集しています！

小野建築設計
「のんびりぐらしの家」
公式サイト
ono-k.com
@onocontractor

弊社の家づくりへの想いをつづった本ができました！詳しくはスタッフまで

2025年4月1日 発行 株式会社小野建築設計　編集：井上 桃子
建設業許可：京都府知事(特-2)第33008号　宅地建物取引業者票：京都府知事(4)第12179号　建築士事務所登録番号：二級建築士事務所　京都府知事登録（04B）第01678号

ono
大原野のくらしを考える
NATURAL LIFE
2025 4月号
四季の歩みに合わせながら のんびり暮らし
この土地で共に生きる人々とのかかわりを伝える
私たちは地域情報誌を「ナチュラルライフ」と名付けました
ナチュラルライフ
vol.232
2005年1月創刊

古代より人々の暮らしと密接に関わってきた「藍」。京都でも栽培が行われ、藍染めなど伝統的な染織技法として発展してきた歴史があります。ここ大枝には、藍に魅せられ、歴史をひも解きながら染織の実践まで一貫して伝える人がいます。そのひとりが武村葉子さん。今年3月には、京都市勧業館みやこめっせで展示と講師を務めたばかり。「（調べて知ることで）藍の世界がより広がることが何よりの喜び」と語る武村さんを今月はご紹介いたします。

藍研究家
武村葉子さん

藍の生葉にも色の原料となる「インディカン」を含有しているため、布に当て青色に発色させる。外周は「すくも」を使用した藍染め。かけ合わせた作品として美しく表現されている。

10数年前、地域の中学校に伝統工芸として「藍」の講義を行うことになり、吉川慶一さん（京都ほづ藍工房）にお願いしたところ「自身でやってみては？」と勧められた武村さん。吉川さんに助言をいただきながら藍の奥深い世界に触れることになりました。
持ち前の探求心で史実や古書、絵画を参考にしながら自らの問いを磨き続けていきます。藍染めの経験は約13年。長年の実践者と思われがちですが、その探求の姿勢に驚かれることも少なくありません。
知識を広げるうちに、講演を頼まれることも増え、幼児から大人まで幅広い場で活動されています。依頼先に応じてテーマを考え、歴史や文化を調べることで、新たな発見や研究者との出会いがあるといいます。

「緋の道青の道」（2025年）では、自身の実験的な作品を展示しながら藍と人の関りを歴史からひも解く講演会を行う。

◀淡い黄土色から赤紫色まで染色の温度を変えると様々な表情を見せる藍。一枚の布に複数の色をかけ合わせて作品が作られる。

「白花小上粉種」タデアイの品種お気に入り

沈殿藍を顔料の形状にさせたり染料を実験的に作っている▲

歴史から今にどう活かしていくか

講義では世界各地で藍がどのように使われてきたのか、日本人と藍染めの関わりなど、史実を交えながら語られます。近世に入り、化学的に合成されたインディゴの開発により、植物を原料とする藍染は衰退してしまいます。こうした背景をふまえ「これから植物由来の藍ならではの効能や色の魅力を伝えるために、どのような工夫や取り組みを目指すべきなのでしょうか」と問いかけます。葛飾北斎がドイツ産の「ベロ藍」を積極的に使用したことに触れ「藍染めが残っていくためには、今あるものとのバランスが必要だと考えます」と語ってくださいました。